

さいたま 来ぶらり通信

Contents

創刊10周年記念「来ぶらり通信」にみるさいたま市図書館のあゆみ……1,2 本棚ぶらり……………3
 新しくなりました「さいたま市子ども読書活動推進計画」 図書館情報がラジオでも聴けます……………4

10
YEARS
ANNIVERSARY

創刊 10周年 記念

「来ぶらり通信」にみるさいたま市図書館のあゆみ

さいたま市が誕生して15年。図書館報「さいたま来ぶらり通信」は、今号で10周年を迎えました。
 10年間で少しずつ変化してきたさいたま市図書館のすがたを、記事で振り返ります。

さいたま市誕生から、「来ぶらり通信」創刊まで

- 平成13年5月 さいたま市誕生
- 15年4月 政令指定都市へ移行
- 17年4月 岩槻市編入
- 18年8月 「さいたま来ぶらり通信」創刊

岩槻区の3館がさいたま市図書館の仲間入りをした翌年、満を持して新図書館報が誕生しました。

タイトルは全図書館の職員から案を募り、ぶらりと気軽に立ち寄れる図書館でありたいという想いを込めて命名されました。



▲創刊号。
 当時の表紙は新聞をイメージした縦書のレイアウトでした



サービスの進化 ～より便利な図書館を目指して～

■インターネット上での予約受付サービス開始（平成17年6月）

当時の機能は、現在よりもかなりシンプルなものでしたが、開始早々から多くの方にご利用いただきました。

「予約サービス利用急増 受付件数、1年間で約3倍に」📖 創刊号

■メールマガジン配信開始（平成22年3月）

図書館からのお知らせ、図書館のイベントや刊行物などの情報を毎月お伝えしています。

「3月にここが変わる！図書館の新コンピュータ」📖 第11号

■「わたしの本棚」サービス提供開始（平成28年3月）

借りた本や、気になる資料の情報を保存しておくことができるようになりました。

「ホームページで読書記録が保存できます！」📖 号外

■開館時間・開館日の変遷

10時から開館していた図書館もありましたが、全館で9時からに統一。また、毎月月末の休館日を廃止しました。（平成19年4月）
 さいたま市内全図書館が月曜日に休館していましたが、休館日を月曜日と火曜日に分けたことにより年末年始を除き全館休館という日をなくしました。（平成24年4月）

「休館日と開館時間が変わりました」📖 第3号

「平成24年4月1日から休館日と利用時間が変わります」📖 第18号



25館が勢ぞろい

いつも利用している図書館は何歳になるのか、ご存じですか？ 現在の総勢25館となるまでを、年月順に並べてみました。

昭和46年 4月	与野図書館 開館	平成19年 9月	東高砂分館 閉館
46年 9月	岩槻図書館 開館	19年11月	中央図書館 開館
48年 2月	大宮図書館 開館（創立は大正13年）	20年 5月	北図書館 開館
49年 1月	北浦和図書館 開館	25年 1月	武蔵浦和図書館 開館
51年10月	東高砂分館 開館	28年 1月	美園図書館 開館
60年 8月	南浦和図書館 開館		
61年 4月	与野南図書館 開館		
62年 6月	大宮西部図書館 開館		
平成 4年 6月	大宮東図書館 開館		
4年10月	与野図書館西分館 開館		
8年 4月	岩槻駅東口図書館 開館		
9年 4月	東浦和図書館 開館		
10年 4月	岩槻東部図書館 開館		
10年 6月	春野図書館 開館		
12年 5月	大宮西部図書館三橋分館 開館		
12年 7月	七里図書館・宮原図書館 開館		
14年 7月	馬宮図書館 開館		
16年 7月	桜木図書館 開館		
17年 7月	桜図書館 開館		
18年 5月	片柳図書館 開館		
19年 4月	大久保東分館 開館		

※ 年表中の図書館名は最新の名称です。



連載記事「ハロー！来・ぶら・り」などで、開館や閉館のニュースを取り上げてきました。

図書館も“ぶらり”とでかけています

ときには建物を飛び出して……。図書館が外部と連携して行った事業のご紹介です。

■コミュニティFM局「REDS WAVE」(CityFMさいたま)に図書館職員が出演し、本やイベントの紹介をしています。

「FMで聴いてみよう さいたま市図書館」📖 第16号

■サッカースタジアムではおはなし会などを行っています。

「わがまちsai発見 サッカーのまちさいたま」📖 第17号

■「うなぎまつり」の会場で出張おはなし会を開催しました。

「わがまちsai発見 さいたま市の伝統産業」📖 第10号

■うらわ美術館と連携して、美術館でのおはなし会などを開催しています。

「うらわ美術館「須田剋太展 一生誕100年記念生命の讃歌」」📖 第3号

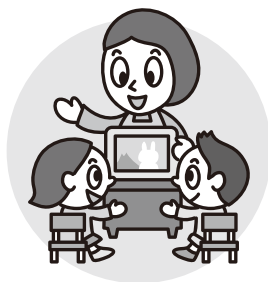
「うらわ美術館「世界の絵本がやってきた プラティスラヴァ世界絵本原画展」」📖 第4号

「今年も開催！うらわ美術館でおはなし会「ぐりとぐらとなかまたち山脇百合子絵本原画展」記念連携事業」📖 第7号

「本をめぐるアートのお話」📖 第9号 「美術館でおはなしをきこう！」📖 第10号

■ビジネスに役立つ相談会や講演会などを開催しています。

「ビジネスの情報収集は図書館で～中央図書館のビジネス支援サービス～」📖 第9号



「さいたま来ぶらり通信」バックナンバーはさいたま市図書館ホームページからもご覧いただけます。

さいたま市図書館トップページ▶図書館の刊行物▶さいたま来ぶらり通信

本棚 ぶらり



祝!「山の日」

今年から8月11日が「山の日」として国民の祝日になりました。

山の日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日ということです。

そこで、今回は読み継がれてきた定番中の定番である山岳小説とその登場人物のモデルと言われている人たちに關する作品を紹介したいと思います。

読書を通じて山々にそして登山家たちに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

◆『^{かみがみ いただき ゆめまくらばく}神々の山嶺』(夢枕獏／著 集英社ほか)

2016年3月に公開された映画「エヴェレスト」の原作としてご存知の方も多い作品。

この小説で孤高の天才クライマーとして描かれている^{は び じ ょ う し}羽生丈二のモデルと言われているのが登山家・^{もり た ま さ る}森田勝。彼もまた一匹狼と呼ばれた伝説のクライマーですが、その生き様を伝える作品としては『^{さ せ み の る}狼は帰らず-アルピニスト・森田勝の生と死-』(佐瀬稔／著 山と溪谷社ほか)が有名です。また、羽生のライバルとして登場する“長谷”のモデルと言われているのは登山家・^{は せ が わ つ ね お}長谷川恒男。彼も同じ著者が『^{こ ー ぐ う と う ほん し ゃ}長谷川恒男虚空の登攀者』(山と溪谷社)という作品で描いているので、併せて読んでみると二人の人物像の対比やモデルと実像の違いを浮かび上がらせることができるでしょう。

そして、やはりこの『神々の山嶺』で描かれている人物として重要なのがイギリスの登山家ジョージ・マロリーです。奇しくも刊行から2年後の1999年にその遭難遺体が75年の時を経て発見されたのですが、作品中でも鍵を握る“カメラ”は残念ながら発見されなかったようです。その後の検証を含めた作品が、翌2000年に自身も著名な登山家であるラインホルト・メスナーにより『マロリーは二度死んだ』(山と溪谷社)として刊行されていますので、こちらもどうぞ。



『孤高の人』

新田次郎／著

新潮社文庫(1973年)

◆『^{こ ー ぐ う に っ た し ょ う}孤高の人』(新田次郎／著 新潮社)

山岳小説を数多く手掛けた新田次郎の言わずと知れた代表作。モデルは単独行で数々の^{と う はん き ょ う}登攀記録を残した登山家・^{か と う ぶん た ろ う}加藤文太郎。大正から昭和というまだ登山が一部の裕福な人達のものだった時代に、軽装備の社会人登山家として単独行にこだわり、30年という短い生涯を駆け抜けた姿を描いています。

彼の遺稿集『単独行』は再編集され『^{しん へん}新編 単独行』(加藤文太郎／著 山と溪谷社)として読むことができます。

同じく新田次郎の作品『^{ぎん れい}銀嶺の人』(新潮社)は、女性では世界で初めてマッターホルン^{は く へ き かん と う}北壁完登を成し遂げた二人が主人公です。そのモデルは登山家・^{わ か や ま よ し こ}若山美子と、医師であり登山家の^{い ま い み ち こ}今井通子。若山はその6年後に遭難死していますが、今井は自身の体験や半生を『私の北壁』(朝日新聞社ほか)など多くの著書で記しています。

◆『^{と う さ わ き こ う た ろ う}凍』(沢木耕太郎／著 新潮社)

世界的クライマー^{や ま の い や す し}山野井泰史とその妻^{た え こ}妙子^{ひ っ ち}がヒマラヤの難峰ギャチュン・カンに挑み、猛烈な悪天候の中での壮絶な戦いの末、奇跡の生還を果たしました。本書はノンフィクション作家の沢木があたかもその場に居合わせたような臨場感溢れる筆致で描いた作品。

この時の模様も含め、山野井泰史は自身のクライマー人生を『垂直の記憶』(山と溪谷社)や『アルピニズムと死』(山と溪谷社)で綴っています。また、沢木は後にエッセイ集『^{ポーカー・フェイス}ポーカー・フェイス』(新潮社)の中でも山野井夫妻の人物像に触れた豪快なエピソードを載せていますので、これらを読むといかに山野井夫妻が並外れた精神力の持ち主であるかを思い知らされます。

新しくなりました★さいたま市 子ども読書活動推進計画



「子どもの読書活動の推進に関する法律」をご存じですか？

毎年4月23日を「子ども読書の日」とすることや、子どもの読書のために自治体などが努めるべきことを定めた国の法律です。

この法律に基づいて平成18年につくられたのが「さいたま市子ども読書活動推進計画」です。平成23年の改定を経て、今年3月、第三次計画ができました。



どんな計画？

- 子どもが読書の楽しさや大切さを知ることができるよう、家庭・地域・図書館・学校などが連携して、子どもが主体的に読書活動に取り組める環境づくりを進めていきます。

図書館での取り組みは？

- 乳幼児・小学生・中学生・高校生、それぞれの発達段階に応じた資料の収集に努めています。
- 中・高生を対象に図書館ボランティア体験プログラムを行います。

他にも、子どもたちへ向けた様々な取り組みを行っています。詳しくは…

- 計画をまとめた冊子は、さいたま市図書館各館でご利用いただけます。
- ホームページにも掲載しています。
さいたま市図書館トップページ▶さいたま市子ども読書活動推進計画

図書館情報が ラジオでも聴けます

来ぶらり通信16号「FMで聴いてみようさいたま市図書館」での紹介から5年。

放送エリアが拡大され、今では、さいたま市全域で聴くことができるようになりました。

毎週火曜日放送の「イブニングパス」内において、各館の図書館イベントの紹介と職員によるおすすめ本のご案内を行っています。

現在も、リスナーに図書館で本と出会う楽しさを知ってほしいという気持ちを込めて、毎週放送に取り組んでいます。ぜひお聴きください。

★番組詳細★

●イブニングパス 87.3MHz

●図書館情報のコーナー 毎週火曜日 17時45分頃



ニ本棚 ぶらり

『ラジオのお仕事』

むろいまさや (室井昌也著 勉誠出版 2015年)

普段から当たり前のように、ニュースや音楽に出会えるラジオですが、どのように番組を制作しているかは知らない方も多いのではないのでしょうか。

本書は、実際に働いている方々へのインタビュー形式で、舞台裏と中々聞けない現場の実情を紹介しています。読むと聞こえてくる世界が変わるかもしれません。



編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321
東浦和図書館 875-9977
美園図書館 764-9610
大宮図書館 643-3701
桜木図書館 649-5871
大宮西部図書館 664-4946

馬宮図書館 625-8831
三橋分館 625-4319
春野図書館 687-8301
大宮東図書館 688-1434
七里図書館 682-3248
片柳図書館 682-1222

与野図書館 853-7816
与野南図書館 855-3735
西分館 854-8636
岩槻図書館 757-2523
岩槻駅東口図書館 758-3200
岩槻東部図書館 756-6665

桜図書館 858-9090
大久保東分館 853-7100
北図書館 669-6111
宮原図書館 662-5401
武蔵浦和図書館 844-7210
南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 皆様のおかげで来ぶらり通信も10周年を迎えることができました。今後20年、30年…と迎えられるよう、精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。次回発行予定：11月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに

